

「大滝清雄氏」 略 歴

- 1914年（大正3年） 5月20日 福島県三神村に生まれる。
- 1932年（昭和7年） 私立石川中学校卒業し日本大学芸術学部に進学し憧れの川端康成から創作の指導を受ける。
- 1934年（昭和9年） 日本大学卒業。
- 1935年（昭和10年） 郷里に戻り文学の研究を続ける。
- 1937年（昭和12年） 会津若松歩兵連隊留守隊に応召。
- 1939年（昭和14年） 中国北支戦線に従軍。
- 1940年（昭和15年） 北支戦線にて戦傷、大阪赤十字病院・東京赤十字病院に送還。
- 1942年（昭和17年） 戦傷直り結婚。北部（北海道）教育隊に転属、単身赴任、予備学生の指導に当たる。戦友の霊に捧げる詩集「黄風抄」発行。日本詩壇詩集賞受賞。
- 1945年（昭和20年） 終戦、三神村に帰郷し詩作・文学研究を始める。
- 1947年（昭和22年） 三神中学校教諭。
- 1949年（昭和24年） 矢吹中学校教諭に転勤。同人誌「龍」創刊。詩集「龍」発行。
- 1950年（昭和25年） 詩集「三光鳥の歌」発行。福島県文学賞受賞。
- 1953年（昭和28年） 栃木県足利市に一家転居し、足利市の小中学校教員となる。
- 1959年（昭和34年） 現代詩人会理事に就任。
- 1962年（昭和37年） 栃木県教育委員会指導主事に就任。
- 1964年（昭和39年） 足利市立中学校の校長に就任。
- 1967年（昭和42年） 足利市教育委員会指導課長兼足利市立教育研究所所長に就任。
- 1975年（昭和50年） 足利市立足利第二中学校長を最後に定年退職。「詩と詩論・非連続詩集」詩集「アラヤの狼」発行。
- 1976年（昭和51年） 詩集「定本大滝清雄詩集」発行。詩集「大滝清雄詩集」発行。
- 1982年（昭和57年） 詩集「ラインの神話」発行。
- 1983年（昭和58年） 詩集「ラインの神話」 第16回日本詩人クラブ賞受賞。
- 1985年（昭和60年） 「草野心平の世界」発行。
- 1986年（昭和61年） 足利市政功労（教育文化）章受章。栃木県文化功労者（詩部門）章受賞。
- 1988年（平成元年） 矢吹町図書館開館を記念し、自らの詩書等多数寄贈、図書館内に「大滝清雄文庫」が開設された。大滝清雄先生を顕彰し、矢吹町内小中学生の応募による「さわやか詩集」第1号を発刊し、以後毎年発行。「さわやか詩集」第5号から審査を行い、優秀作品の中から「大滝清雄賞」表彰を始める。
- 1993年（平成5年） 「大滝清雄詩集」 - 「日本現代詩文庫」発行。
- 1995年（平成7年） 日本現代詩人会「先達詩人」顕彰を受ける。
- 1997年（平成9年） 下野県民賞受賞。
- 1998年（平成10年） 9月16日足利市にて病没。享年84歳。



●大滝清雄氏 プロフィール

1914年（大正3年）5月20日福島県西白河郡三神村（現矢吹町）の景政寺の長男として誕生。

1927年（昭和2年）私立石川中学校（現学校法人石川高等学校）時代から文学活動に取り組む。1934年（昭和9年）日本大学卒業後、矢吹町の中学校教員、足利市の小中学校教員時代、そして、その後も詩の創作、詩集発行を続け、現代詩人会の重鎮として活躍した。平成元年の創刊号から存命中は「さわやか詩集」の審査や詩評など支援指導をくださった。

さわやか詩集 30年の歩み


矢吹町教育委員会
矢吹町図書館



● さわやか詩集30年の歩み

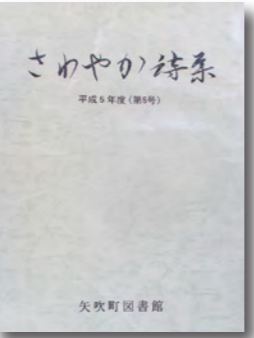
昭和の時代から平成へと移り変わり、平成元年の矢吹町図書館の開館、さわやか文庫、大滝清雄文庫の開庫を記念し、平成元年の読書週間に詩を募集しました。その応募された全作品を掲載した詩集「さわやか詩集」の第1号として創刊したのが始まりです。平成5年度より、応募者の中から賞を選出することとなり、入賞者の表彰式を開催するようになりました。平成6年度から町内の小中学生の詩のみを募集して、最優秀賞「大滝清雄賞」、さわやか大賞、さわやか賞、入選の賞を設けて表彰式を行っております。小中学生の応募者全員の詩を掲載する「さわやか詩集」は全国的にも大変めずらしいと言われております。こうして、今年度30号という平成の初めから終わりまで発行できたことを町民の皆様とともに慶びあいたいものです。あらためて、大滝清雄先生の功績を称えとともに、これからも小中学生の皆さんの詩心を育て、町民の皆様と親しんでいただける「さわやか詩集」となるよう発行を続けていきます。

第1号



平成元年の矢吹町図書館の開館、さわやか文庫、大滝清雄文庫の開庫を記念し、読書週間に詩を募集。応募された全作品を掲載した詩集が「さわやか詩集」の第1号（B5版）として創刊された。

第5号




この年より応募作品の中から賞を創設することとなり、2名の審査員のもと「さわやか大賞」、「さわやか賞」、「入選」を選出する。その中より最優秀賞となる「大滝清雄賞」を大滝清雄氏が自ら選出する。

● 歴代審査委員

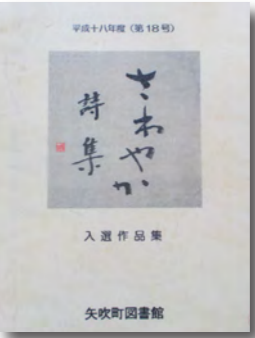
大滝清雄（平成5年～9年大滝清雄賞の選出 福島県文学賞受賞（詩）元福島県文学賞審査委員）
 小川琢士（平成5年～15年 元福島県文学賞選考委員）
 菊地啓二（平成5年～8年 元福島県文学賞企画委員）
 菅野昌和（平成9年～現在まで 大滝清雄先生の矢吹中時代の教え子 詩誌「の」同人）
 あんざいのりこ（平成16年 詩誌「の」同人）
 高原木代子（平成17年～19年 詩誌「の」同人）
 室井大和（平成20年～現在まで 平成30年福島県文学賞受賞（詩） 福島県現代詩人会常任理事 詩誌「の」同人）

第10号



平成10年9月16日に大滝清雄氏のご逝去された。大滝清雄氏の詩への想い、さわやか詩集に対する意思を引き継ぎ、この号より審査員が「大滝清雄賞」を選出する。

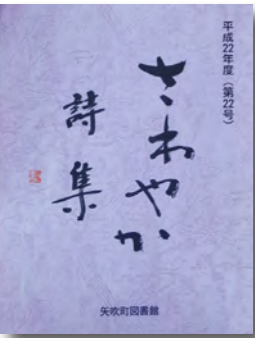
第18号



入選作品のみを掲載した唯一の詩集。応募者全員の作品を掲載した詩集は、全国でもめずらしい。子供達の想いの詰まった作品を後世に伝えたいと次号より全作品の掲載に戻すこととなる。

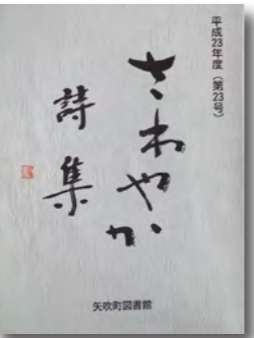


第22号



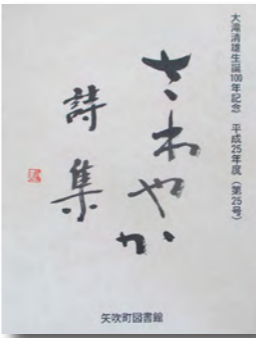
この号より、「続大滝清雄詩集」の中の「教育詩抄」より、詩を一編選出し、巻頭の詩を掲載する。この号以降も掲載される。（第18号からA4版。題字は円谷ミエ書芸会師範の号となる。）

第23号




「東日本大震災」後、初めての詩集。この年の作品の特徴は、何と言っても大震災を体験しての心情が多く描かれていることである。原発、余震に対する不安や怒り、復興への思いが伝わる作品集である。

第25号



「大滝清雄氏生誕100年及びさわやか詩集第25号記念」として発行。表彰式においてはポエムコンサートに変わり、絵本作家サトシン先生による記念講演が執り行われた。

第30号



「さわやか詩集30周年」を記念して、詩集とともに「さわやか詩集30年の歩み」と題した記念パンフレットを制作。昨年、大滝清雄氏のご息から寄贈いただいた貴重な資料の中から「ゆかりの作品展」を開催。

● 「さわやか詩集」30号を振り返って

さわやか詩集審査委員長 菅野 昌和

今年「さわやか詩集」30号が出版されました。矢吹町図書館の開館と同年に始まり職員の方々の御苦労の賜物でもあります。私達審査員に子供達の作品が届くのは9月半ば頃。約1,400編程の量です。ダンボール箱に入れ家に持ち帰り、日を見て読み始めます。数時間毎の区切りでは、子供達の世界に入り込めない。低学年から見ていくのですが、数日間子供の思考と一体になる。稲穂が黄ばむ時期ですが、農には心を向けずに打ち込みます。子供達のことばの穂群れに微笑みに没頭する数日、何年間も、この様な秋の日を送った。思い出が財産になった様な気がします。昨年、10月13日大滝清雄先生のお子さん3人と栃木県足利市での教え子の方が御夫妻でお見えになりました。「さわやか詩集」30号を記念してということでした。その際「このような事業は全国でもめずらしいことです。」と言われました。矢吹町の教育、文化事業として今後も続くことを願うものです。

● 30号発行ありがとうございました

矢吹町教育委員会教育長 栗林 正樹

30年間、小中学生の詩集が発行できたことは素晴らしいことです。小中学生は「また詩の季節が来たか。何を書いたらいいか、どう書いたらいいか、困った。」と、思い悩んだこともあったと思います。それでも9年間詩を書きます。そうして、「さわやか詩集」ができます。30年前の第1号は、小学生1,557人中66人、中学生925人中26人と、一般2人の計94人でした。30号では、小学生903人中897人、中学生448人中400人の応募がありました。子供たちの成長はすばらしく9回も書くと「もう詩人ですね」という生徒も出て来ます。これからも「詩を書く町やぶぎ」として続けていきます。全ての詩を何度も読み審査して下さる審査委員の方、小中学生の皆さんはじめ指導して下さる先生方、発行のためにご尽力下さっている図書館の皆様、そして、さわやか詩集のきっかけを作ってくださった故大滝清雄先生に心から感謝申し上げます。